

第2回

埼玉県サーキュラーエコノミー
スタートアップ
ビジネスプランコンテスト

令和7年度

CSUP

SAITAMA CIRCULAR ECONOMY
STARTUP BUSINESS PLAN CONTEST

REPORT / INTERVIEWS

開催レポート / 受賞者インタビュー

主催：埼玉県

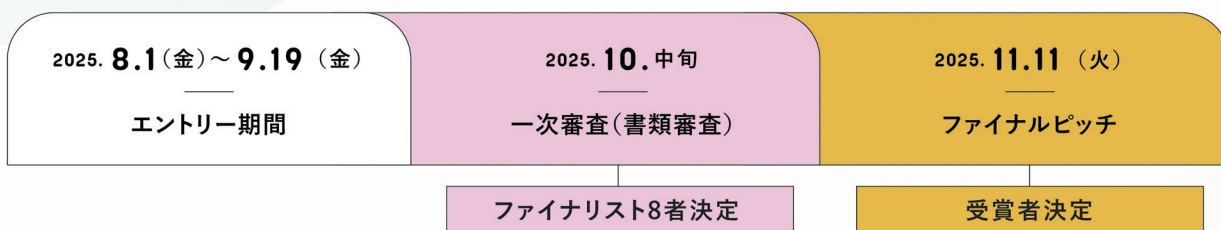
ABOUT CSUP

シーサップとは

CSUP(シーサップ)は、埼玉県が主催する
サーキュラーエコノミーに特化したビジネスプランコンテストです。
全国のスタートアップ企業や社内ベンチャー等を対象に、
埼玉県内で展開する先進的なビジネスプランを募ります。
受賞企業には県内での事業展開を支援します。



開催スケジュール



審査員

下記5名の審査員の他、埼玉県職員1名が加わり審査いたしました。

審査員長  吉高 まり 氏 一般社団法人バーチャデザイン 代表理事	 小中 洋輔 氏 三井住友信託銀行株式会社 TBFチーム シニアマネージャー CE・NP1号ファンド エグゼクティブアドバイザー	 斉藤 麻子 氏 株式会社ドラマティック 代表	 酒井 里奈 氏 株式会社ファームンステーション 代表取締役	 那須 清和 氏 サークルデザイン株式会社 代表取締役
--	--	---	---	---

AWARDS

表彰

最優秀賞

賞金 **100万円**

優秀賞(2者)

賞金 **50万円**

特別賞

賞金 **30万円**

副賞



コエドテラス無償利用権

埼玉りそな銀行



M's SQUAREでの
企業紹介(紹介動画放映)

武蔵野銀行



創業支援拠点Anonect
インキュベーション施設 無償利用権

埼玉県信用金庫



「かわしん景況レポート」への
受賞者紹介記事の掲載

川口信用金庫



「あおしん景況レポート」への
受賞者紹介記事の掲載

青木信用金庫



「はんしん景況レポート」への
受賞者紹介記事の掲載

飯能信用金庫

WINNER

受賞者



最優秀賞

「エシカルリノベーションシティ埼玉」の実現
— 建築資材ロス削減と資源循環文化の創造 —

HUB & STOCK株式会社



優秀賞

空き家を活用した
アフーダブル賃貸住宅事業

株式会社ヤモリ



優秀賞

醤油粕アップサイクル燻製材
meets 彩香の燻醬
がっこいぶりの生ふりかけ
～漬物ロスゼロ化を目指して～

Smoke-i-freeit



特別賞

過熱蒸煎機を用いた
かくれフードロスの削減及び
アップサイクルフード市場の創出

ASTRA FOOD PLAN株式会社



FINALIST

ファイナリスト



スマートゴミ箱からはじまる
“街の資源循環ステーション”

株式会社フォーステック
代表取締役社長 竹村 陽平



運ばず、燃やさず、資源化する
「JOYCLE BOX」

株式会社JOYCLE
代表取締役社長 CEO 小柳 裕太郎



廃棄プラスチックの
バイオリサイクルによる
サーキュラーエコノミーの実現

株式会社Enzyme Labo
代表取締役 瀧松 一弘



.Garbon

株式会社Gab
代表取締役CEO 山内 萌斗

「エシカルリノベーション シティ埼玉」の実現 — 建築資材ロス削減と 資源循環文化の創造 —

HUB & STOCK株式会社
代表取締役社長 豊田 訓平

問い合わせ先：
HUB & STOCK株式会社
<https://hub-st.jp/#contact>

<https://hub-st.jp/>



捨てられている余剰建材を買い取り・回収して アウトレット価格で販売

私どもは過剰発注や廃盤品など、捨てられている余剰建材を買い取り・回収し、自社倉庫で保管・管理、そしてアウトレット価格で再販するビジネスモデルを立ち上げました。埼玉県は首都圏の物流ネットワークのハブであり、工場、施工現場、倉庫が1時間圏内に集まる地理的中心地です。既に埼玉県内だけで100トン以上の未使用建材を回収しています。文化面においては、建材を作るヒトと使うヒトが近いことが挙げられます。今ある資源を生かし、建材ロスをゼロにする持続可能な町づくりという、「エシカルリノベーションシティ埼玉」モデルを確立した後、同モデルを全国展開して2029年には年間資源循環量600トン、売上高3億円を目指します。

POINT

- 捨てられている未使用新品建築資材を買い取り
- DIYユーザー、リフォーム業者、ホームセンターへ販売
- 床材や壁材を中心に定価の7～8割引のアウトレットで販売
- SNSでリユース建材を活用した空間事例を発信



建材メーカーや施工業者などから余剰建材を買い取り、toC、toBで販売



最優秀賞

CONGRATULATIONS!



Q. 受賞に当たり一番評価を受けたと感じるポイントはどこですか？

建築資材ロス問題という全国共通の課題に対し、首都圏物流ネットワークのハブである埼玉県からサーキュラーモデルを展開するビジョンにご期待いただいたと感じます。特に、廃棄物削減の優先順位において、リユースを第1選択とする当社の徹底した取り組みが評価につながったと考えます。

Q. CSUPに出場したことでの変化と今後の展望について教えてください。

埼玉県をはじめとする行政機関との連携が飛躍的に深まり、事業に対する社会的な信用が一段と向上しました。審査員の皆様からの貴重なご意見も事業計画のブラッシュアップにつながっています。現在、関連部局や各事業者様との具体的な連携協議も進行中です。埼玉県発のサーキュラーモデルを実現すべく、共感いただけるパートナー企業を広く募り、この循環の輪をさらに大きく広げてまいります。

空き家を活用した

アフォダブル賃貸住宅事業

株式会社ヤモリ
代表取締役 藤澤 正太郎



埼玉県内には33万戸の空き家があります。一方、都市部では物件価格と家賃が高騰し、若い世代にとって住宅費上昇は大きな課題です。当社は、空き家問題と住宅費問題を一度に解決するため、空き家を再生して賃貸物件として運用するビジネスモデルを構築しました。今後、自治体・インフラ事業者・金融機関と提携し、空き家再生賃貸ファンドを立ち上げ、アフォダブル住宅の提供により子育て世帯を支援していきます。

空き家を再生して賃貸物件化

賃貸オーナーも育成して中古住宅を流動化

POINT

- 現在、埼玉県内では23物件を賃貸中
- 空き家物件データベース、賃貸オーナーの育成、融資の仕組みを構築し、中古不動産を流動化
- データベースで賃貸収支シミュレーションの作成が可能
- 2030年までに1万件の空き家再生を目指す



空き家を活用したアフォダブル賃貸住宅事業

Q.

CSUPに出場したことでの変化と今後の展望について教えてください。

CSUP参加を通じて、空き家を賃貸住宅として長期活用する「埼玉空き家再生賃貸プロジェクト」の意義を多くの方に共有できました。今後は「埼玉空き家再生賃貸ファンド」を設立し、地域企業や金融機関と連携して資金を循環させ、解体新築比で最大96%の廃棄物削減と家族世帯向けアフォダブル住宅の拡大を両立するサーキュラーエコノミーモデルを広げます。

問い合わせ先: 株式会社ヤモリ
TEL: 03-5464-1820
E-mail: house@yamori.co.jp

<https://www.yamori.co.jp/>



優秀賞

醤油粕アップサイクル燻製材

meets 彩香の燻醬

がっこいぶりの生ふりかけ

～漬物ロスゼロ化を目指して～

Smoke-i-freet
代表 辻 健太郎



年間10万トン発生する醤油粕は、その多くが飼料として活用されていますが、酪農家の半減により、新しい活用先の開発が急務です。そこで、醤油粕からアップサイクル燻製材を生み出す製法を開発しました。木材より燻製が短時間化でき、殺菌効果が高く食材がロングライフ化します。現在、川越の株式会社塩野さんと提携し、大根漬物製造で発生する廃棄物を醤油粕燻製材で燻製漬物として商品化し、フードロスゼロを実現しています。

醤油粕燻製材で漬物端材を商品化し

フードロスゼロを実現

燻製時短化&殺菌効果で食材がロングライフ化

POINT

- 醤油粕燻製材を開発、燻製時間の短縮と食材のロングライフ化
- 醤油の薫香により、塩分・糖分が低くても旨味が感じられる
- 捨てられていた漬物端材を燻製にして商品化しロスゼロに
- 醤油粕燻製材を木材チップの代替として海外輸出も視野に



独自の製法で開発した醤油粕燻製材

Q.

2年連続の受賞となった現在改めて今後の展望を教えてください。

改めて応援してくださった皆様ありがとうございました。私たちは香り付けで人と社会にやさしい新たな食文化をコンセプトに、人と地球に健康と経済を同時提供するというテーマを掲げて活動しています。地球にもお財布にも体にもやさしい醤油粕燻製材を、将来的には和食とBBQをつなげる架け橋のような存在に育てたいと考え、既に北米を見据えています。埼玉県から世界のスタンダードへ。今後とも応援よろしくお願いします。

問い合わせ先: 辻 健太郎
E-mail: kentaro_tsuji@outlook.jp

<https://smoke-i-freet.com/>





特別賞

過熱蒸煎機を用いた かくれフードロスの削減及び アップサイクルフード市場の創出

ASTRA FOOD PLAN株式会社
営業・マーケティング部 齋藤 夏実



当社は、食品の生産・加工工程で廃棄される野菜端材の「かくれフードロス」削減に取り組んでいます。食品残渣などをわずか10秒で乾燥・殺菌できる「過熱蒸煎機」を開発し、廃棄野菜端材をフレーク・パウダー化して販売しています。現在、食品工場に機器をレンタルし、野菜端材をフレーク化したものを買い取って「ぐるりこ®」ブランドとして販売中。さまざまな食品端材を再生利用し、食のサークュラーエコノミー実現を目指します。

加工食品工場で廃棄される野菜端材などを フレーク・パウダー化して利用・販売

POINT

- 400℃の超高温過熱水蒸気で野菜端材をフレーク・パウダー化して「ぐるりこ®」ブランドで販売
- 過熱蒸煎機のエネルギーコストは10円/kg、初期投資も小さい
- 機器レンタル/パウダー買い取りモデル、機器売り切り/パウダー自社利用モデルも用意
- ホップ搾りかすやコーヒー搾りかすなど食品残渣にも利用可能



食品残渣をフレーク・パウダー化

Q.

CSUPに出場したことでの変化と今後の展望について教えてください。

埼玉県に多く存在する「かくれフードロス」を削減し、地域で循環させていくことは、私たちの大切な使命だと思っています。CSUP出場によって、その想いがさらに強くなりました。来春から、「ぐるりこ®」の受託製造も開始します。機械導入が難しい企業も量産が可能になることで、活用の可能性が大きく広がると期待しています。今後は、「ぐるりこ®」の仕入れや販売も担い、プラットフォーム事業へと展開させていきたいです。

問い合わせ先:ASTRA FOOD PLAN株式会社
E-mail:info@astra-fp.com



<https://www.astra-fp.com/>

GALLERY

ファイナルピッチの様子

ファイナルピッチでは、各プレゼンテーションだけでなくファイナリストと来場者の交流も行われました。



総評

審査員長 吉高 まり氏



今回第2回の開催となりましたが、どれも本当に素晴らしいプレゼンで、第1回から格段の進化を感じたというのが審査員一同の感想です。特に今回は、明日にでも埼玉サーキュラーモデルとして走り出しそうな提案が多かったことに驚いています。また、その中核がサーキュラーではなく、コベネフィット的に社会の課題解決を明確に打ち出した提案になっていたのが素晴らしいと感じました。審査に当たっては、いかに埼玉要素を盛り込んでいるかを重視しましたが、多くの企業が埼玉県内でのリサーチもしっかり行っていたことをうれしく思います。また、リユース・リ

サイクル・リデュースの3Rだけを目的とするのではなく、新たなサーキュラーエコノミーモデルとして提案されたところも評価に値します。今回、再チャレンジされた企業が何社ありましたが、これは本当にうれしいことです。さらに上を目指してのチャレンジは、CSUPならではの価値があります。サーキュラーエコノミーはまだ始まったばかりのビジネス分野ですので、今回参加された企業には何度でもCSUPにチャレンジしていただき、今後も埼玉県がサーキュラーエコノミーのハブとなるように盛り上げていただきたいと思います。



吉高 まり氏

-to ASTRA FOOD PLAN株式会社

埼玉県発スタートアップとして、既に県内の工場で実績を上げていることが評価できます。食品加工時の残渣を利用したビジネスは他にも存在しますが、パウダー化することでよりスケールアップできると期待しています。食品リサイクルの出口戦略がしっかりと立てられていることが素晴らしいと感じました。

-to 株式会社フォーステック

スマートゴミ箱の導入は欧州で進んでいます。日本ではなかなか進まないのが現状です。その中で、大学生を中心に地域社会を巻き込んだ共創ムーブメントを創出するアイデアは興味深いです。大学に給水器を導入したところ、瞬く間に学生間で普及が進んだという事例もあり、大学生の発信力には期待できます。



斉藤 麻子氏

-to 株式会社Enzyme Labo

PPやPEを分解できる世界初の技術は大きな強みになると思います。工場内でリサイクルができる点にも期待。実用化への検証と市場開拓の必要がありますが、実用化できれば環境負荷低減につながる可能性が高いでしょう。



小中 洋輔氏

-to HUB & STOCK株式会社

過剰発注をゼロにすることがサーキュラーエコノミーの基本原則ですが、工期の関係でゼロ化ができない中、未使用品の回収・アウトレット販売はすごく良いソリューションだと思います。大手建材メーカーと連携し、品番がそろった未使用建材を一定量回収・ストックするなど、ビジネスの発展性を感じます。

-to 株式会社ヤモリ

新しく建てるのではなく、空き家という既存ストックを活用するという点で、人口減少局面にある日本におけるサーキュラーエコノミーのアプローチとして素晴らしいと思いました。規模拡大におけるボトルネックがファイナンスの仕組みにあるとのことですので、私たちもお手伝いできればと考えております。



酒井 里奈氏

-to 株式会社JOYCLE

ゴミ処理場と運搬ドライバーの減少という喫緊の課題へのソリューションを提示していることが素晴らしいです。埼玉県特有の課題にも注目しているほか、離島への展開の可能性もあり、社会的な意義を感じました。

講評

各ファイナリストへの

審査員から



那須 清和氏

-to Smoke-i-free

醤油粕の課題にユニークな切り口からアプローチしており、用途・ターゲットが明確だと感じました。廃棄物の食品開発支援も醤油粕燻製材展開に役立つものと期待でき、県内企業とムーブメントをつくっている点もCSUPでの支援意義があります。2回目の応募ですが、前回より進化している点が心に響きました。



神野 真邦氏

-to 株式会社Gab

廃棄物を炭化することにより高付加価値素材へ転換し、新たな製品として循環させるビジネスモデルは、既に大手自動車メーカーと連携した実証事業を開始するなどその実現性に期待がもてます。今後、様々な分野への波及効果が見込まれると感じました。(埼玉県 産業労働部 産業政策局長)

PRESENTER プレゼンター

大野 元裕 埼玉県知事



受賞者の皆様、誠におめでとうございます。今後、皆様のビジネスをプランとしてだけでなく、次の実践の場として埼玉県で展開していただくことを心から祈念しています。本日の会場である渋沢MIXは、埼玉県が生んだ偉人、渋沢栄一翁の名前を頂いた

ものであります。渋沢栄一翁は、「道徳経済合一説」、すなわち企業経営は経済だけではなく、そこに道徳という価値観も必要であるということを説かれました。サーキュラーエコノミーも、実はこの2つの面を持っているものであり、単なる経済だけではないと思っています。

さて、ではなぜ埼玉県でサーキュラーエコノミーなのかについて触れます。埼玉県では、令和5年に「サーキュラーエコノミー推進センター埼玉」を設置しました。国内の他の自治体では同様のセンターを環境部門に置いているのに対して、埼玉県は産業労働部、つまり経済部門が管轄しているという特徴があります。すばらしい環境を残すことには「総論賛成」ですが、「各論反対」、つまり、経済として成立しないと尻込んでしまい、結果的に環境問題は解決しない。そのように考えて、産業労働部がサーキュラーエコノミーに取り組んできました。

また、埼玉県は災害が少なく住みやすく、首都圏内でも例えば東京都との流入出で常にプラスとなっています。特に交通利便に関しては、東京発では東海道新幹線以外の6つの新幹線が乗り入れる交通の要衝です。サーキュラーエコノミーは製品を作るだけでなく、そこで排出されたものに付加価値を付けて循環させることが重要であり、人が多く、モノを作り、消費し、そこで資源を排出するだけではなく、流通にも最適という意味で、埼玉県はサーキュラーエコノミーの実践に最も適した県です。この特性を最大限に生かすことで、埼玉県には経済そして環境にチャンスがあります。このCSUPから多くの事業の芽が出て、“Win-Win”となるようにしていきたいと思いますので、皆様、引き続きのお力添えをお願いします。本日はありがとうございました。

COLUMN 埼玉県の特徴

埼玉県の人口

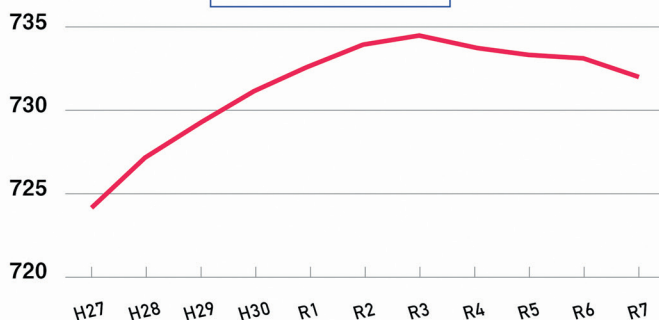
人口：約**732**万人

※令和7年12月1日 出典：埼玉県HP

- 人口は一貫して増加するも、令和3年に初めて減少に。
- 到来する超少子高齢化社会への対応が重要。

(単位：万人)

埼玉県の人口推移



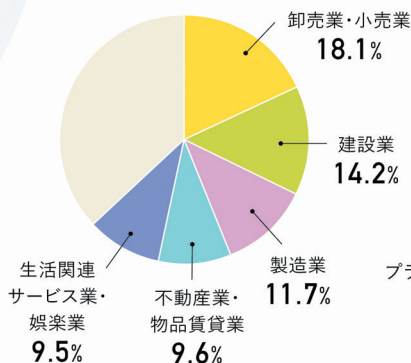
埼玉県の産業構造

- 県内企業は「卸売業・小売業」「建設業」「製造業」「不動産業・物品賃貸業」「生活関連サービス業・娯楽業」の5産業で全体の6割超。
- 製造業の製造品出荷額等は、「食料品」が最も高く、「輸送用機械器具」「化学」の順となっている。

出典：令和3年総務省・経済産業省「経済センサス・活動調査」

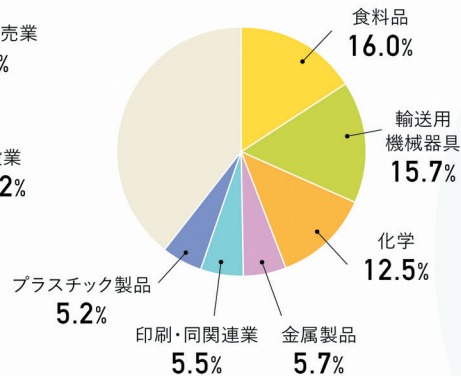
県内企業等数

約**16**万企業



製造業 製造品出荷額等

約**12兆8,630**億円



RELATED MEASURES 関連施策

サーキュラーエコノミー推進センター埼玉



- サーキュラーエコノミー推進センター埼玉は、循環型ビジネスに取り組む県内企業等を支援するワンストップ支援拠点です。
- サーキュラーエコノミーセミナー、研修会等を開催し、普及啓発・情報発信を行います。
- 専任のコーディネーターが「廃棄物を有効活用したい」「環境に配慮した材料に変えたい」等の様々な相談に応じます。
- コーディネーターによるマッチング支援や試作開発費用等への助成により、事業化を後押しします。

どのような内容でもまずはお気軽にセンターにご相談ください。

公益財団法人 埼玉県産業振興公社
循環経済支援グループ

TEL:048-711-9906

E-mail:junkan@saitama-j.or.jp

受付時間:9:00~17:00 (土日・祝祭日除く)

<https://www.saitama-j.or.jp/junkan/>



サーキュラーエコノミー推進分科会



- サーキュラーエコノミーに取り組む事業者、市町村、消費者団体等で構成する会員組織です。
- 先進事例や国の最新動向等の情報共有、セミナーの開催、会員の交流や事業連携の機会の提供等を行っています。
- 入会対象…推進分科会の目的に賛同し、県内で活動している又は活動しようとしている企業、業界団体、消費者団体、行政機関

埼玉県 環境部 資源循環推進課

TEL:048-830-3107

E-mail:a3100-11@pref.saitama.lg.jp

渋沢MIX



- 約500もの企業の創立に携わった埼玉県出身の偉人である渋沢栄一翁が、適切な人や企業をマッチングすることで企業を成長に導いたことに倣い、埼玉県が令和7年7月に設置したイノベーション創出拠点です。
- イノベーションの創出を支援する専門人材が常駐し、県内外の人や企業等の交流を促進するイベントを開催するなど、皆様のイノベーション創出を様々な形で支援します。

埼玉県 産業労働部 産業支援課

TEL:048-830-3787

E-mail:a3770-21@pref.saitama.lg.jp

<https://shibusawa-mix.pref.saitama.lg.jp/>





石膏ボード水平リサイクルによる 循環型社会の実現

株式会社GYXUS
代表取締役社長 平田 富太郎

Q CSUPを受賞したことでの変化と
今後の展望について教えてください。

第1回CSUP最優秀賞受賞を起点に、GYXUSは石膏ボード100%水平リサイクル工場の全国展開を加速し、国内外の仲間と“埋めない社会”を目指しています。令和7年度、経済産業省・環境省の両省より、合わせて30億円程度の補助金交付決定を受けました。CSUP以降、加速度的に支援が広がっています。第1回グランプリ受賞者として、今後も頑張ります。



排出事業者向け 「使用済み紙おむつリサイクル」

サステナブルクリエイト株式会社
代表取締役社長 大嶋 武



Q CSUPを受賞したことでの変化と
今後の展望について教えてください。

自社PRをする際に事業内容をより理解し、評価を頂くことが多くなりました。また、令和7年度埼玉県次世代ものづくり技術活用製品開発費補助金およびサーキュラーエコノミー事業化支援補助金に採択され、埼玉県・埼玉県産業振興公社より手厚い支援を頂くこともつながり、事業化に向けて加速し始めました。



埼玉県における木製パレットの 利活用と農業用特化木炭の開発

株式会社ジェイ・シー・ティー
代表取締役 市川 忠義



Q CSUPを受賞したことでの変化と
今後の展望について教えてください。

受賞を通じて、会社や事業に対する社会的な信頼の高まりを実感しています。サーキュラーエコノミーのようになかなか伝わりにくい分野においても、県からの評価は事業を進めていくための大きな後押しとなりました。試行錯誤を重ねながら、着実な社会実装を目指していきます。



Smoke-i-freet
代表 辻 健太郎

醤油粕燻製材から始まる埼玉発アップサイクル×マッチングサービス



Q CSUPを受賞したことでの
変化を教えてください。

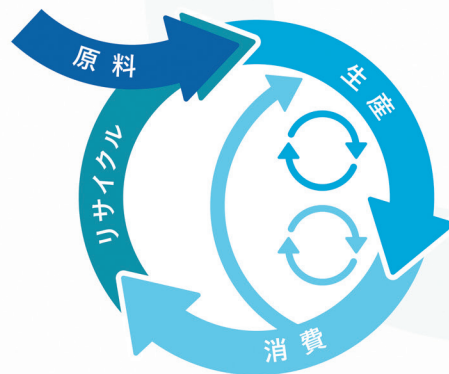
多くのSDGsは社会実装できずに消えてしまいます。心のどこかに環境に良いから安定供給できなくてもいい、高くて当然という出口戦略に対しての甘えがあると思います。CSUP応募が私の意識に大きな変化をもたらし、その甘えを打ち砕くべく、「体感できる場所を作ること」「経済合理性を証明すること」「世界展開を語ること」を掲げて成長できた一年だったと思います。

「サーキュラーエコノミー」推進の 背景にある3つの課題

01

資源制約・リスク（経済の自律性）

世界ではマテリアル（素材・原材料）の需要が増大していますが、このまま使い続けると、将来的に枯渇してしまうことが心配されています。特に、金・銀・銅・鉛・スズなどは、2050年までの累積需要が埋蔵量の2倍以上になると予想され、今後は価格も上がって調達が難しくなる可能性があります。また、資源の産出地が特定の国や地域に集中していることもリスクの一つです。例えば、最近では中国がレアアースの輸出を制限しました。このように、国際情勢によっては安定した原材料の確保が難しくなります。



サーキュラーエコノミー(CE)

サーキュラーエコノミー(CE)とは生産活動や消費活動などのあらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図る経済活動のこと。

02

環境制約・リスク

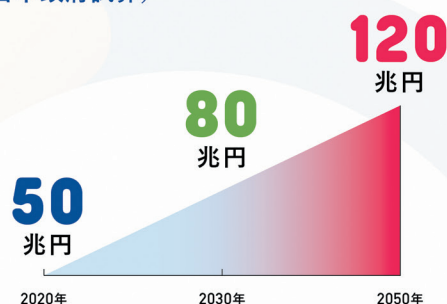
日本はこれまで、大量の廃棄物を海外に輸出してきました。しかし、近年は、有害廃棄物の国境を越える移動やその処分を規制する「バーゼル条約」などによって国をまたいだ廃棄物の移動が厳しく制限されるようになってきました。一方、国内の廃棄物処分場の能力にも限界があり、廃棄物を出さない設計を目指す必要があります。日本の一般廃棄物のリサイクル率は19%ほどで、世界の中ではまだまだ低く、改善の余地があります。また、カーボンニュートラルの観点からも、資源循環は重要です。例えば、アルミ缶の製造では、新品の素材だけを使う（バージン製造）のではなく再生材を使うことで、97%もCO₂の排出を削減できるとされています。

03

成長機会

試算によると、2050年にCEの国内市場は120兆円、国際市場は25兆ドルにも上るとされています。また、CEに対応していない製品は、世界市場から排除される可能性もあります。既に欧州ではCE関連の規制が進み、米国ではAppleやMicrosoftといった先進企業が、競争力強化の一環として、再生材のみを利用した製品の製造や、製品・包装から生じる廃棄物をゼロにするなどの取り組みを推進しています。

サーキュラーエコノミーの国内市場規模 （日本政府試算）



上記のとおり、CEへの移行は「リスク回避」と「成長機会の創出」につながります。日本は国内資源に乏しく、多くのものを輸入に頼らざるを得ないため、グローバルな動向による制約・リスクが常につきまといます。国内の資源循環システムを構築することは、こうしたリスクをできる限りコントロールし、自律的で強靱な経済成長につなげる狙いがあります。また、企業が経営戦略・事業戦略にCEを組み込み、付加価値の高い循環型の製品・ビジネスをグローバル市場で展開することは、国際競争力を得られるとともに、企業の持続的かつ着実な成長も実現すると期待されています。

CSUP

SAITAMA CIRCULAR ECONOMY
STARTUP BUSINESS PLAN CONTEST

埼玉県サーキュラーエコノミー
スタートアップ
ビジネスプランコンテスト

主催・問い合わせ先

埼玉県 産業労働部 産業創造課
サーキュラーエコノミー・
ものづくりイノベーション推進担当
TEL:048-830-3735
E-mail:a3760-10@pref.saitama.lg.jp

お問い合わせ



共催



協賛



後援

